

講義名	中国語 B		
担当教員	小山 櫻嘉		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。私たちが日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようにしたいものです。テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

到達目標

- 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
- 基本的な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができる
- 基本的な文の意味を理解でき、書くことができる

提出課題

必要に応じて課題提出を求めることがあります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授与した宿題や小テストの正解内容は授業中で解説する。

評価の基準

次の3点を総合的に評価します。

- 授業態度 30%
- 小テストや中間テスト、課題提出など 50%
- 期末テスト 20%

履修にあたっての注意・助言他

外国語の授業は実践的なもので活発な取り組みを期待します。授業中の積極的態度は大いに評価します。最近では教科書を持って来ない人や、始終スマホを操作している人が見受けられますが、そのような消極的な授業態度は大きなマイナスポイントとなります。

教科書	はじめよう案々中国語、小林和代・鶴軍	白水社	2200	

プリント資料及び参考文献

必要に応じて配布します。

授業計画

- 第1課 単母音・声調・子音・軽声
- 第2課 複母音・鼻母音・発音のまとめ
- 第3課 何月何日・何時
- 第4課 お名前は、どちらの大学
- 第5課 たねなに？これは-です
- 第6課 いる・ある
- 第5課～第6課のまとめ
- 中間試験
- 第7課 どこにいる・AそれともB
- 第8課 どれくらいかかる・-するのが好きです
- 第9課 いくら・ふりも-です
- 第10課 -したい・どこで
- 第11課 -できる・-していい
- 第12課 -している・-したことがある
- 第7課～第12課のまとめ

授業の進捗はクラスの状態に合わせて適宜調整します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

みなさんにとって初めて学ぶ中国語は、当然のことながら、すべて新しく学ぶことばかりで、すべて一からこつこつと覚えていく必要があります。また、外国語学習は積み上げ方式なので、授業内容を毎回しっかり理解しなければ、それ以降の学習に影響します。ちょっとしたまづきが元で、授業がつまらなくなったり、音痴に陥りやすくなります。最低限、前回学んだ内容を復習し、次の授業に臨むことが求められます。特に単語は毎回しっかり覚えていきましょう。毎回授業終わる前に、予習と復習の内容、宿題、小テストの準備のための復習内容などを言います。それらの内容を完成するために、毎週予習復習する時間は4時間以上が要求されます。翌週の授業で、単語テストと文型或いは口頭試問などのテストを実施することがあります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

2020年度は、入力不要

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考